平成２６年度　長岡市立図書館の活動評価

図書館法第 7 条３項の規定に基づき、平成２６年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく自己評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

○　評価の概要

・基本評価は、評価対象の 11 項目中「予約件数」「インターネットアクセス件数」「中央図書館郷土資料受入点数」以外の８項目の評価がＢ評価となり、昨年度の実績を下回る結果となった。

・重点事項評価は、事業別評価の１５項目では、Ｂの評価が１項目あった他は全てＡの評価となった。また、総括評価でも、Ｂの評価が１項目あったが、他の４項目全てがＡ評価であったことから、全体としては、優れた取組が、いくつかあり、成果が上がっている。

○　評価の項目

１　基本評価（前年度比較による数値評価）

前年度（平成 25 年度）の数値と比較し、評価を行う。

①　利用状況

中央図書館入館者数、個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、登録率、実登録者数、登録率、インターネットアクセス件数、中央図書館開館日数、中央図書館郷土資料受入点数、窓口対応満足度

②　運営管理費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

２　重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、事業報告を行い、評価を行う。

１　課題解決に向けた資料の充実と、利便性の向上を図る。
２　当市をはじめとする郷土に関する各種資料の収集・保存・活用に努める。
３　市民の意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
４　積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施により、さらなる利用の拡大を図る。
５　職場内研修をはじめ、様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。
６　施設設備の老朽化に伴い、改修計画を策定し、大規模改修を図る。
※６は参考とし、評価は行わない。

○　評価の方法

１　図書館の内部評価

・項目ごとに前年度数値と比較するなどして算定し、評価する。

・「基本評価」、「重点事項評価」ともに、ＡＡからＣまでの４段階の評価とする。

区　　分	評価区分・内容
１　基本評価	ＡＡ　･･･ 前年度を大きく上回った。（＋１０％超） Ａ　･･･ 前年度維持・伸張した。（０～＋１０％） Ｂ　･･･ 前年度を下回った。（０未満～－１０％） Ｃ　･･･ 前年度を大きく下回った。（－１０％超）
２　重点事項評価	ＡＡ　･･･ 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 Ａ　･･･ 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている Ｂ　･･･ 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 Ｃ　･･･ 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

２　図書館協議会による評価

① 協議会の開催

・日　時　　平成２７年２月１３日（金曜日）

・会　場　　長岡市立中央図書館講座室１

② 協議会の意見のとりまとめ

・上記協議会における各委員の意見を渡邉誠介委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

○　図書館協議会意見

１　「基本評価」について

・実績の増減にはこだわらないほうがよい。しかし、いろいろ努力しているにもかかわらず、結果的にＢ評価が多いというのは切ない。マクロ的な環境変化（人口減少・高齢者の増加・子どもの減少など）、ミクロ的な長岡の各図書館が持っている事情によって減少傾向に至ったという部分もあるはずである。要因分析は難しいと思うが、次への改善策の方向付けをしてほしい。

・貸出数も多ければいいというものではない。どういう図書館を目指すかということが問われる。日ごろから、進めながら振り返りつつ、次につなげていくために、ＰＤＣＡ（Plan、Do、Check、Act）を行っていく必要がある。

・学校の先生の協力をもっと得たら、子どもや保護者の利用が増えるのではないか。図書館に行けば、違った本があると啓発してもらうことが必要である。

・評価にＢがたくさんついていると悲しい。大型書店がでてきたり、調べものをインターネットで調べる社会になったということで、図書館に求められるものが相対的に量的に低下しているのか。図書館が揃えた本や、図書館サービスの内容に対して、実際に求めている人の現実は、こういうものだということを客観的に見なければいけない。

２、「重点事項評価」について

（１）【２－１　課題解決に向けた資料の充実と、利便性の向上を図る】

・有料イベントでもフェイスブックを活用するなど情報発信を工夫することで申し込みが増え、県外からも参加者が集まる。情報発信の工夫が必要である。

・今度企画されている「大人のとしょリンピック」は良い。ただ、宣伝があまりうまくない。図書館全体で盛り上げて、宣伝してもらいたい。

（2）【２－２　当市をはじめとする郷土資料に関する各種資料の収集・保存・活用に努める】

・長岡市災害復興文庫は大変意義がある。しかし、中越大震１０周年が過ぎれば、熱も冷めてしまう。市外の評価は高いが、市内の認識が意外と進んでいない気がする。ＰＲが大事になると思う。

（３）【２－３　市民の意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる】

・長岡図書館友の会が全国図書館大会において、図書館支援団体としての活動を評価され感謝状が授与された。今後も活動を継続してほしい。

（４）【２－４　積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施により、さらなる利用の拡大を図る】

・評価は認められるが、積極的な広報については、もう少し工夫が必要である。

（５）【２－５　職場内研修をはじめ、様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る】

・職員研修は図書館サービスの向上を図るために大切だと思うので、今後も充実させてほしい。

平成２６年度長岡市立図書館の活動評価　１　基本評価

ＡＡ	前年度を大きく上回った（＋１０％超）
Ａ	前年度維持・伸張した（０～＋１０％）
Ｂ	前年度を下回った（０未満～－１０％）
Ｃ	前年度を大きく下回った（－１０％超）

①　利用状況

項　　目	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	評価	備考
入館者数（中央図書館・人）	３５６,３５３	３６１,８１９	３４２,１４５	Ｂ	
個人貸出冊数（冊）	１,６１５,５８１	１,６３７,５２８	１,６１６,２１９	Ｂ	
予約件数（件）	１７８,６５８	１８５,７７５	１８６,１５２	Ａ	
有効登録者数（人）	５１,２５８	５０,５２１	４９,５２２	Ｂ	
登録率（％）	１８．２３	１８．０８	１７．８５	Ｂ	
実登録者数（人）	３８,２３１	３８,３１７	３７,７４９	Ｂ	
登録率（％）	１３．６０	１３．７１	１３．６０	Ｂ	
インターネットアクセス件数（件）	４１８,５１４	４６９,５３４	４７５,３７０	Ａ	
中央図書館開館日数	２９３	２９７	２９５	Ｂ	
特別資料の転載等許可件数	２２３	１６６	５６７		参考数値
中央図書館郷土資料受入点数	２,２５３	２,８５１	３,００４	Ａ	
窓口対応満足度（大変よい＋よい）％	８３．１	８７．９	８３．５	Ｂ	P21 参照

② 管理運営費

項　　目	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	評価	備考
図書館費 （各年度の決算額・千円）	４４１，７１０	４１２，２１６	４４７，００８		
（うち施設管理経費）	２３１，４４３	２４４，０７２	２４４，０１２		
（うち資料費）	６５，２９２	６５，２９０	６６，８２９		
（うち事業費）	１４４，９７５	１０２，８５４	１３６，１６７		

２　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－１　課題解決に向けた資料の充実と、利便性の向上を図る。

２－１　重点事項　を達成するための重点事業

① Ｗｅｂでの情報発信
② 各図書館のテーマコーナーの整備
③ 合併地域の地域図書館の資料充実

（１）重点事業概要

① ホームページでの情報発信
新着情報やテーマコーナーの紹介、ＰｉｃｋＵｐ！（各館で行われたイベント報告など）などの情報発信を積極的に行い、来館者増を図る。

② 各図書館のテーマコーナーの整備
各図書館でテーマコーナーを設置、古典文学から時事問題まで新鮮な切り口でテーマを設定し市民に提供する。

③ 合併地域の地域図書館の資料充実
中之島地域図書館、寺泊地域図書館、栃尾地域図書館の３館は、市町村合併により長岡市の図書館となり図書館システムの統合を行ったが、長岡地域の図書館に比べ蔵書が少なく古い資料も多い。このため計画的に蔵書整備を行うもの。

（２）事業実績

① 各施設のイベント、お知らせ、活動報告等の情報発信を特設ページを開設するなどして、こまめに行った結果、トップページアクセスが前年同月比較で１万ページビュー増加し、累計で、４７５，３７０ページビューのアクセスとなった。

② 今年度は、「貸出回数０回の本」という今までにないテーマで実施した。また、美術センターの自主企画展、文書資料室の企画展や県立近代美術館等の展示内容に合わせた関連テーマの展示を行った。

③ 各館で、５００冊程度の新鮮で利用者のニーズに合った資料を購入した。１２月末現在の３館の貸出冊数は、前年比較で中之島館 102.7%、寺泊館 100.4%、栃尾館 104.7%となった。

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	特設ページを開設するなどこまめな情報発信によりホームページのアクセスが昨年同期より増加した。

②	B	新たなテーマに取り組んだり、他施設の企画展の展示内容に合わせたテーマを実施したり、ＰＲの相乗効果が図られたが、利用者数増などの目に見えた成果はでなかった。
③	A	各館５００冊程度の新鮮で利用者ニーズに合った資料を購入でき、利用者から喜びの声が聞かれた。一方で、アンケートには、例年同様に資料に対する要望が多かった。

（３）－２　総括評価

重点事項	評価	評価理由
1	B	ホームページの充実を図ったり、テーマコーナーを工夫したりしたが、利用者数や貸出冊数の増加つながらなった。

（４）今後の課題・方向性

・ホームページは新システムの移行に伴いリニューアルしたが、表示方法に規制が多かったり、電算的なトラブルがあったりと、体制は整っていない。ページの構成も含め、体制の整備を進めたい。

・テーマコーナーのテーマの選択には毎回職員は頭を悩ませている。ホームページでもテーマを紹介したが、予約件数や来館者の増につながらず、成果は出ていない。他市の図書館の事例なども参考とし、各館の交換展示などの利用促進となるテーマ設定を考えたい。

・支所地域の地域館は、今後も継続して古い資料の入れ替えを進めたいが、大幅な入れ替えは難しい。各館との蔵書交換など魅力づくりを検討し、実施する必要がある。

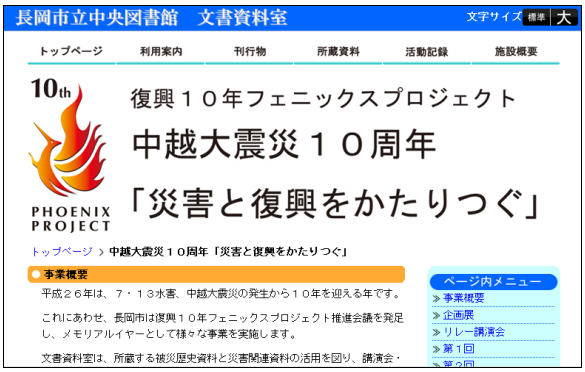
重点事業：２－１－①　Ｗｅｂでの情報発信

＜目的・概要＞

・ホームページでは、新着情報やＰｉｃｋＵｐ！（各館で行われたイベント報告など）などを積極的　に発信し、各種講座の積極的な募集や、新たな来館者増を図る。
・Ｗｅｂサービスでは、新システム導入に伴い、新しく取置期限・返却期限のお知らせサービスを実施し、延滞者や予約期限切れとなる利用者の削減をめざす。

情報等をコンパクトにまとめたトップページ

災害と復興をかたりつぐ特設ページ（文書）



＜評価＞

各施設のイベント、お知らせ、活動報告等の情報発信をこまめに行った結果、トップページアクセスカウンター集計において、１２月末時点の前年同月比約１万ページビュー増（３５９，３０３ＰＶ）となった。

（今年度実績）

・Ｐｉｃｋｕｐ！等の各種情報発信（更新３１９件）
・丸木展特設ページ開設
・ヤングアダルト世代向け広報誌『ＹＯＵＮＧ－ＪＩＮ（ヤンジン）』掲載開始
・米百俵号特設ページ開設
・ジャンル別月次イベント情報掲載開始（行事案内ページと連携）
・中越大震災１０周年「災害と復興をかたりつぐ」特設ページ開設（文書資料室）
※３月に新システム移行によるＷｅｂサービス拡充を実施。

＜課題＞

ホームページの更新対応が迅速にされない場合がある。今後、新図書館システム移行に伴うＣＭＳ（ホームページ簡易更新ツール）導入により、更新作業を軽減し、各館から手軽にまた迅速に情報発信ができる体制を整える必要がある。また、スマートフォン等の様々なデバイスに対応したレスポンシブＷｅｂデザイン対応の新ＨＰへの移行が課題となっている。

重点事業２－１－②　　各図書館のテーマコーナーの整備

＜目的・概要＞

・請求記号にこだわらず、テーマにそった本をまとめて並べることで、関連の本も探しやすくする。
・普段はなかなか目に留まらない書架の本を、めだつ場所に面出しにすることで、新たな利用を促す。
・市民からお勧めの本を募集したり、近隣施設の展示とコラボしたりすることで、市民や地域と密接した関係を築く。

中央図書館参考コーナー

新潟県立歴史博物館特別展にちなんだコーナー展示を展開　「親鸞聖人の足跡を辿る」

中央図書館一般コーナー

食に関する小説やエッセイを展示　「美味しい小説・満腹エッセイ～本のレストランへようこそ」

＜評価＞

一般コーナーでは「貸出回数０回の本」という今までにないテーマを実施した。また、利用者から「私のお気に入りの一冊」を募集し、おススメコメントを表紙に貼付して展示した。地域館でも展示を行うなどＰＲを工夫した。児童コーナーでは県立近代美術館からの要請で黒井健展の会期に合わせて関連本を展示、併せて展覧会チラシの設置を行った。参考コーナーでは７月の美術センターの丸木展に合わせて丸木位里・俊夫妻の著書や戦争と平和の関連本の展示を行った。９月には文書資料室の企画展「災害と復興をかたりつぐ」に合わせた中越大震災の展示を行った。テーマ展示についてはＨＰに掲載し、これらのテーマ展示のポスターについて図書館関連雑誌「ライブラリー・リソースガイド」第９号で紹介された。

地域図書館でも定期的にテーマコーナーを作成、展示している。11 月西地域図書館では犬の日にちなみ、犬に関する資料展示のほかに、利用者からの愛犬の写真を募集展示したり、関連したおはなし会を開催したりした。また 3 月には、三条市・燕市と連携し地元の著名人を紹介しあうエクスチェンジ展示を実施した。

＜課題＞

どのようなテーマで展示を行うか毎回職員は頭を悩ませている。ＨＰでテーマコーナーを紹介するなどしたが、予約件数の増加や来館者増加につながらず、はっきりとした成果は出ていない。他市の図書館の事例なども参考にし、各館交換展示を検討するとともに、利用促進となるテーマ設定を考えたい。

重点事業：２－１－③　合併地域の地域図書館の資料充実

＜目的・概要＞

・栃尾地域図書館、寺泊地域図書館、中之島地域図書館の３館は旧市内の図書館に比べ蔵書が少なく古い資料も多い。このため計画的に蔵書整備を行うもの。今年度は３館には地域図書館資料充実事業として別枠の予算措置を行った。

〈展示の様子〉寺泊地域図書館 新刊コーナー

〈展示の様子〉栃尾地域図書館　新刊コーナー

＜評価＞

各館およそ 500 冊の新鮮で利用者のニーズにあった資料を購入することができた。利用の多い夏休みに購入した資料を集中して展示することで利用者の目に触れる機会を増やし、多くの利用者から新しい本が入ったことを見てもらうことができた。新しい資料が入ったことで利用者からの喜びの声も聞かれた。

＜課題＞

購入した資料は一時的に集中展示しコーナーを作成したが、コーナーを解体した後は、古い資料の間に入り、新しく購入した資料が引き立たなくなってしまった。

支所地域の地域館は、今後も継続して古い資料の入れ替えを進めるとともに、各館同志の蔵書交換など魅力づくりを検討し、実施する必要がある。

２－２　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－２　当市をはじめとする郷土に関する各種資料の収集・保存・活用に努める。

２－２　重点事項　を達成するための重点事業

① 貴重資料の公開
② 郷土資料の充実
③ 古文書など歴史資料、歴史公文書の収集・保存・活用
④ 長岡市災害復興文庫（被災歴史資料・災害復興関連資料）の収集・整理・保存・活用

（１）重点事業概要

① 貴重資料の公開

ネットミュージアム、エントランス展示を充実させ定期的に資料の展示を行う。

② 郷土資料の充実

・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。

・郷土出版物の出版情報に注目するとともに、関連施設と連携を図りながら情報収集をする。定期的に郷土資料の出版情報を収集し、新聞のチェックや長岡市役所各課へ資料の寄贈依頼を行う。

③ 文書など歴史資料、歴史公文書の収集・保存・活用

・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行、歴史資料所在確認調査などを行う。

・平成２６年度廃棄文書目録（予定表）から、歴史公文書を選定。各課から収集した歴史公文書を整理し、保管する。

④ 長岡市災害復興文庫（被災歴史資料・災害復興関連資料）の収集・整理・保存・活用

・災害と復興の経験・教訓を後世に伝えるため、中越大震災・東日本大震災等の災害記録の収集・整理・保存・活用を行う。

・平成 26 年度は、中越大震災 10 周年「災害と復興をかたりつぐ」事業として、リレー講演会・企画展示会・関連図書の増刷やリレー講演会記録集などの刊行を行う。

（２）事業実績

① 貴重資料の公開

・ネットミュージアムにコンテンツ追加１０点　（平成 27 年３月）

・エントランス展示回数年間１６点　（平成２５年度１４点）

② 郷土資料の充実

・図書館全体で、約3,０００点の受入れのうち、寄贈受入は2,０７３点（平成２５年度２８０点）

③ 古文書など歴史資料、歴史公文書の収集・保存・活用

・古文書など歴史資料寄贈受入点数　５１７点（平成 25 年度　7,834 点）

・歴史公文書の収集・保存　（現在整理中）点（平成 25 年度　1,022 点・158 箱）

④　長岡市災害復興文庫（被災歴史資料・災害復興関連資料）の収集・整理・保存・活用

・長岡市資料整理ボランティアの活動。全１８日活動、述べ１３４人参加。

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	ネットミュージアムのコンテンツ追加を行うとともに、貴重資料の紹介だけでなく情報発信としてエントランス展示を充実させた。
②	A	郷土資料の蔵書数は、図書館全体で、昨年度より3,０００冊程度増加した。
③	A	古文書など歴史資料、歴史公文書の適切な収集・保存・活用に努めた。
④	A	中越大震災 10 周年「災害と復興をかたりつぐ」事業を行い、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国に発信した。

（３）－２　総括評価

重点項目	評価	評価理由
２	A	ネットミュージアムのコンテンツの数や郷土資料の蔵書数も概ね例年通りの増加が確保できた。また、中越大震災 10 周年「災害と復興をかたりつぐ」事業を行い、講演会・企画展・出版物をとおして、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国に発信した。

（４）今後の課題・方向性

・貴重資料については、計画的にデジタルデータ化を進めて行く必要がある。

・郷土資料については、支所地域の資料収集が不足している。各支所などに積極的に働きかけていく必要がある。

・歴史資料・歴史公文書について、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。

・「長岡市災害復興文庫」の充実とＰＲを図って行く必要がある。

重点事業：２－２－①　貴重資料の公開

＜目的・概要＞

①　ながおかネットミュージアムの充実

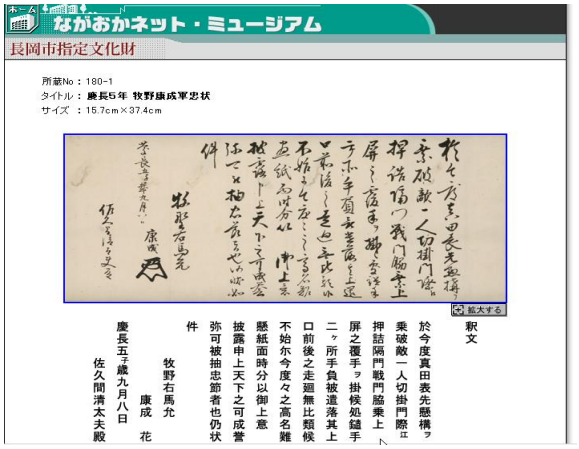
・ 中央図書館で所蔵している貴重資料の公開をして、遠隔地の利用者でも見ることができるようにする。

・ ながおかネットミュージアムのコンテンツの追加。毎年、数点を公開する。

②　エントランス展示

・ 貴重資料をはじめとした一般の利用者の目に触れる機会の少ない資料をエントランスに展示する。

ながおかネットミュージアム



エントランス展示

＜評価＞

①　ながおかネットミュージアム

（平成 26 年度実績）野本恭八郎書の貴重資料の軸物１０点を追加した。

（平成 25 年度実績）牧野忠精画「雨龍」をはじめとする貴重資料３点追加した。

②　エントランス展示回数

（平成２６年度実績）　１６回

（平成 25 年度実績）　１４回

「図書館の窓から」で紹介している所蔵資料や、新潟地震や中越大震災のパネル展示など話題性のあるテーマを選んだ。

＜課題＞

平成 26 年度末で約１６９点の貴重資料をネットミュージアムで公開することになる。将来のオープンデータとして公開も視野に入れながら、計画的に貴重資料などのデジタルデータ化を進めて行く必要がある。また、ながおかネットミュージアムのコンテンツが毎年増えており、構成の整理や検索機能の検討を継続して行く必要がある。

重点事業：２－２－②　郷土資料の充実

＜目的・概要＞

・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。
・地方行政資料、地域内刊行資料。地域関係資料などの歴史的資料以外の資料、情報も積極的に収集し、的確に提供するよう努める。

＜評価＞

	全館郷土資料蔵書数 （各年度３月３１日現在の所蔵）	前年比
平成２３年度	78,572 冊	3,886 冊
平成２４年度	82,043 冊	3,471 冊
平成２５年度	84,787 冊	2,744 冊
平成 26 年度	８８,０５３冊	3,266 冊

・郷土資料の保管場所として与板支所の書庫を借用し、書庫として利用できるスペースが増えた。
・新聞や、雑誌に掲載された郷土資料について情報を収集し迅速な発注、登録を行った。
・今年度市内各高校のパンフレットを収集した。今後も継続したい。

＜課題＞

郷土資料の収集においては、すべての支所地域を網羅的に収集する必要がある。毎年度定期的に市役所各課に資料寄贈依頼を行っており、今年度は地震１０周年に関連した資料の収集が集まったが、地域の自費出版物等は収集は進まなかった。

今後は各支所に積極的に働きかけるなど、支所地域の資料の収集に力を入れて行く必要がある。また、平成 27 年度は合併１０周年の記念の年となるため、郷土コーナーで各地域の紹介コーナー設定などを企画する予定。

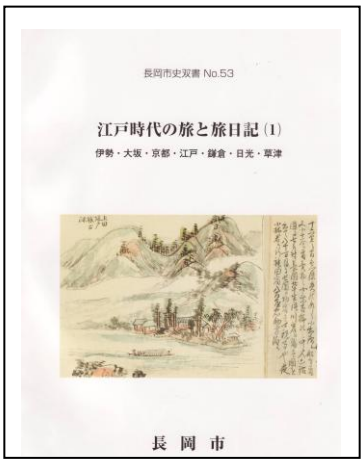
重点事業：2－2－③古文書など歴史資料、歴史公文書の収集・保存・活用

＜目的・概要＞

・郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、文書資料室が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座の開催、長岡市史双書の刊行を行う。また郷土の歴史資料を守るため、歴史資料所在確認調査を行い、常時歴史資料の取扱いについて相談を受け付けている。

・平成２６年度廃棄文書目録（予定表）から、歴史公文書を選定。各課から収集した歴史公文書を整理し、保管する。

長岡市史双書　№５３



古文書解読講座

＜評価＞

郷土資料を活用し、各種講座を開催・長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。また、歴史資料や歴史公文書の収集・保存に努めた。

（今年度実績）

・各種講座の開催

講座名	回数	参加人数	会場
古文書解読講座（入門・一般）	各８回	483 人	さいわいプラザ
長岡市史双書を読む会	４回	257 人	中央図書館

・長岡市史双書№54『江戸時代の旅と旅日記⑵　東北への旅』600 部刊行

・歴史資料所在確認調査　越路地域・長岡地域を調査。調査箇所　２箇所

・歴史資料取扱い相談受付数　４４件　　内訪問調査回数　１６件　（３月現在）

・歴史公文書の保管数・保管場所　現在整理中　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　10 件（平成 27 年３月現在）

（昨年度実績）

・各種講座の開催

講　座　名	回数	参加人数	会　場
古文書解読講座（入門・一般）	各８回	532 人	中央図書館・中央公民館
長岡市史双書を読む会	４回	185 人	アオーレ長岡

・長岡市史双書№53『江戸時代の旅と旅日記⑴　伊勢・大坂・京都・江戸・鎌倉・日光・草津』800 部刊行

・歴史資料所在確認調査　越路地域を調査。調査箇所　１８か所

・歴史資料取扱い相談受付数　37 件　　内訪問調査回数　21 件

・歴史公文書の保管数・保管場所　２８，６０８点　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　10 件

＜課題＞

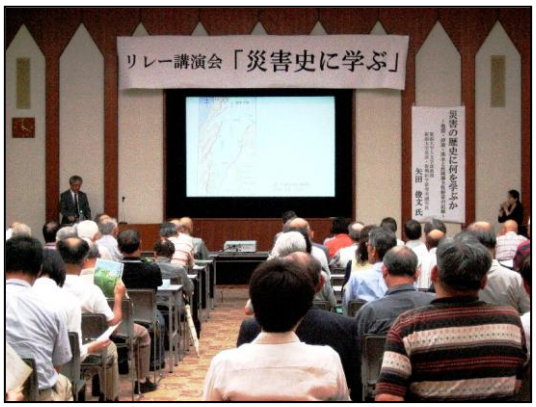
各種講座の参加者が固定化してきている。現在の参加者を確保しつつ、更なる層を開拓していく必要がある。また、講師・執筆者の高齢化が進んでおり、新たな人材を探す必要がある。

歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れる歴史資料及び歴史公文書の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。

重点事業：２－２－④　長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

＜目的・概要＞

・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。
・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用

リレー講演会「災害史に学ぶ」	新潟歴史資料救済ネットワークとの整理作業
	

＜評価＞

（今年度実績）
・中越大震災 10 周年「災害と復興を語りつぐ」事業
　〇リレー講演会「災害史に学ぶ」全 15 回　述べ参加者数１，３４２人
　〇企画展「災害と復興をかたりつぐ」の開催　述べ来場者数１，０６９人
　　期間:10 月 21 日～30 日　場所:中央図書館２階　美術センター
　〇関連書籍の刊行・増刷
　　『リレー講演会「災害史を学ぶ」記録誌』　４００部刊行
　　『震災避難所の史料　新潟県中越地震・東日本大震災』　１，０００部増刷
　　長岡市史双書№.４８『新潟県中越大震災と史料保存⑴長岡市立中央図書館文書資料室の試み』
　　５００部増刷
　　『山古志の文書と民具』　５００部増刷
・長岡市資料整理ボランティアは、全１８日活動、延べ１３４人の参加があった。
・新潟歴史資料救済ネットワークは、全２日活動、４７人の参加があった。
・「東日本大震災に関する書類・写真の整理・保存講習会～被災支援活動の経験・ノウハウを活かすために～」（主催：国立国会図書館）等で長岡市の活動を紹介
（昨年度実績）
・長岡市資料整理ボランティアは、全 11 日活動、述べ 114 人の参加があった。
・新潟県歴史資料救済ネットワークは、全 1 日活動、25 人の参加があった。
・平成 25 年度 12 月のシンポジウム「震災資料・学校資料をどのように保存し活用するか」（主催：新潟大学災害・復興科学研究所）等で活動報告

＜課題＞
平成 26 年 10 月に開設した「長岡市災害復興文庫」のＰＲを行うとともに内容の充実を図って行く必要がある。 今後も、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、活動 10 年目を迎える長岡市資料整理ボランティアとより一層の連携を図る。

２－３　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－３　市民の意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

２－３　重点事項を達成するための重点事業

① 利用者アンケートの実施
③　友の会事業
③ ご意見ポストの設置

（１）重点事業概要

長岡図書館友の会「なりふ」との連携した図書館運営や、利用者からの意見を広く集めることにより、市民といっしょに作り上げる図書館を目指す。

① 利用者アンケートの実施
② 友の会事業
③ ご意見ポストの設置

（２）事業実績

① 利用者アンケートの実施
② 友の会事業
③ ご意見ポストの設置

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	アンケートの結果は、概ね昨年度と同様であった。回収数は増え、より多くの意見を得ることができた。また、初めて高校生を対象としたアンケートを実施した。
②	A	映画上映会を実施。順調な活動を行っている。
③	A	評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。今年度よりご意見の他、月別の満足度の掲示を始めた。

（３）－２　総括評価

重点事項	評価	評価理由
３	A	おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

（４）今後の課題・方向性

・満足度の高い図書館を目指すため、アンケートの実施方法などを検討する必要がある。

・アンケート調査を分析し、図書館運営やサービスの改善に結びつけて行くことが課題である。

重点事業：２－３－①　利用者アンケートの実施

＜目的・概要＞

・利用者の満足度や要望を把握し、今後の運営に役立てる。
・中央図書館は、８月１６日より６日間配布。地域館は７月 26 日～８月１７日
・高校生の利用状況調査のため、高校２年生を対象にアンケートを実施

アンケート項目

【中央図書館】	【地域図書館】
〈利用者アンケート〉 ○ 館内や本棚の表示はわかりやすいですか ○ 本の種類は充実していると思いますか ○ 貸出レシートについて、どのようにお感じですか？ ○ 開館時間はどのくらいがよいと思われますか 〈高校生アンケート〉 ○本を読むことは好きですか ○図書館サービスでご存じのものはどれですか など	○ 本が探しやすいように整理されているか ○ 本の種類は充実しているか ○ 雑誌や新聞の種類は充実しているか ○ 調べ物のための資料や地域資料は充実しているか ○ 特集や展示物、催し物は充実しているか など

＜評価＞

○　中央図書館のアンケート

アンケートは時間を決めてエントランスにて配布した。夏休みボランティアに参加している中学生などにも配布を手伝ってもらったところ、利用者の反応がよく、回収数もあがった。窓口応対については、「大変よい」＋「よい」が８３.５％とおおむね好評をいただいたが、「大変よい」が４２.６％から 35.6%に減少し「大変わるい」の回答が全体の１％と昨年よりあがった。今後の反省としたい。開館時間については、63%以上の人が「このままでよい」と答えている。

平成２６年度アンケート集計より（中央図書館）

（今年度実績）	配布数	1,033	回収数	770	回収率	74.54%
（昨年度実績）	配布数	690	回収数	528	回収率	76.52%

○　高校２年生へのアンケート

利用率の低い中高生世代の実態調査のため、各高校２年生１クラスに依頼し実施、回収数 446。全体の約７５％の生徒が本を読むことは好きだと回答しているが、70%以上の生徒がほとんど図書館を利用しないと答えている。しかし、自習室の認知は 40%を超えており、需要の高さがうかがえた。

○　アンケート結果への対応

新聞コーナーのマナーに対し、張り紙を張ったり指の滑り止め剤を設置したりした。
本の扱い（マナー）の意見に対し、チラシを配るなど注意喚起を行った。

○　地域館のアンケート

（今年度実績）　　配布・回収数　1,024（全て回収）

（昨年度実績）　　配布・回収数　　839（全て回収）

スタッフの対応については満足の割合が高く、好意的な回答がほとんどであった。施設の快適さについては、館内温度の見直しなどできるところから取り組んでいきたい。

＜課題＞

(中央図書館)

本や雑誌の充実を希望する意見が多かった。選書について、利用者の意見を反映させていきたい。非来館者からの意見の収集方法を検討したい。

(地域館)

所蔵している本や新聞の種類についての満足度が低い結果となった。他館との入れ替えや新刊本の充実などさまざまな意見があった。ニーズをふまえ、選書に取り組んでいきたい。

重点事業：２－３－②　友の会事業

＜目的・概要＞

・開かれた図書館とするため、市民との連携・協働を進める。
・友の会との連携事業を実施する。

友の会主催映画会	図書館視察
９月 17 日（水）13 時開始 上映作品『フォート・サガン サハラ、そして愛』 参加者　２５名 【作品紹介】 1910 年代、フランスのアフリカ植民地政策時代の話。歴史劇であるが、そこに織りなす男と女の壮大な愛のドラマである。ヒロインは、フランスの名女優、カトリーヌ・ドヌーブ。彼女は居るだけで映画が華やぐという凄い魅力を持っている。正に麗しいという言葉がそのまま当て嵌まる。そして、公開当時（1984 年）、20 代初めのアイドル女優だったソフィ・マルソーだ。この二人の熟年女性と若い女性が絡み、男と女の愛を浮き彫りにしていく。主演は、フランスの名優ジェラール・ドパルデュー。飄々としたその存在感が魅力的である。果たしてこの三人の三角関係の行方は。 （図書館友の会映画鑑賞部会　野上純嗣）	７月５日実施 行き先　新潟市立亀田図書館 新潟市新津美術館 参加者　10 名（図書館職員同行２名） 内容 ・亀田図書館は 24 年 10 月に新潟市江南区文化会館内に移転。館内を自由見学。ボランティアによるお話会を見学した。 ・新津美術館では「チェブラーシカとロシアアニメーションの作家たち」を観賞。『チェブラーシカ』の誕生から変遷、創作過程の様子を知ることができた。

＜評価＞

２年ぶりに友の会主催の映画上映会を実施し、大変好評だった。

１０年以上にわたる長期間の活動が評価され、全国図書館大会で図書館支援団体として感謝状が授与された。

（今年度実績）

映画会実施、丸木展物品販売補助、エコ・ブックスフェアの共催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など

個人会員　48 名　賛助会員　8口

（昨年度実績）

松岡達英講演会、山下展音声ガイド貸出補助、エコ・ブックスフェアの共催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、魔法のランプ、つぐみの会、栃尾美術館物販支援など

個人会員　58 名　賛助会員　11 口

＜課題＞

図書館が行うことのできない物販などの業務に積極的な支援を受けた。中央図書館長との意見交換会を行うなど、図書館との連携を強化するとともに、今後は、会員が主体となった企画・運営に取り組んでいくことが、課題である。

重点事業：２－３－③　ご意見ポストの設置

＜目的・概要＞

・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。
・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。

＜主な要望＞

○ 借りた本を持って帰る用の手提げバックがあるといい。（中央図書館）
○ インターネットのフィルタをなくしてほしい。（中央図書館）
○ 本の汚れが気になる。（中央図書館）
○ 「●●●」に関する資料を入れてほしい。（中央図書館）　など

○１階トイレの表示を分かりやすくしてほしい。（西地域図書館）
○館内温度が 21 度で少し寒すぎる。暖房温度を上げてほしい（北地域図書館）
○駐車場が狭い。公園スペースを使えないか。（互尊文庫）　など

＜評価＞

（中央館）
・窓口応対については、おおむね好評価をいただいている。意見をうけて、本の持ち帰りのためのエコバックサービスを開始した。急な雨天などに対応でき大変好評である。
・資料に関する要望にはその都度対応した。

（地域館）
施設・設備に対する要望が多かった。その中で、平成 26 年度は互尊文庫のエアコンの入替を行った。

＜課題＞

普段職員が気付きにくいところの意見であることが多いので、利用者の目線に立ち、サービスを改善していくことを一層、心がける必要がある。

２－４　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－４　積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施により、さらなる利用の拡大を図る。

２－４　重点事項　を達成するための重点事業

① 美術センター自主事業「原爆の図　丸木位里・丸木俊の世界展」の開催
② 子ども読書活動推進計画関連事業の実施
③ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

（１）重点事業概要

長岡市立図書館では、子どもから高齢者までを対象に広く事業を行っている。今年度の事業から３点を選び評価を行いたい。

① 美術センター自主事業「原爆の図　人間、その濁と清　丸木位里・丸木俊の世界展」の開催

② 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

子ども読書活動推進計画関連講座の開催やボランティア派遣、としょリンピックなどのイベントを行い読書機会の充実を図る。

今年度は、ニーズの多い学校図書館ボランティア向けの講座を評価対象とする。

③ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

（２） 事業実績

① 美術センター自主事業「原爆の図　人間、その濁と清　丸木位里・丸木俊の世界展」の開催
入場者数　３，１６６人（２３日間）

② 子ども読書活動推進計画関連事業の実施
図書ボラをはじめよう「楽しい学校図書館とは」　参加者数１８名
〃　「学校図書館の整備」　参加者数１８名

③ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施
摂田屋醸造歴史さんぽ　参加者数 15 人
寺泊地域探訪「寺 - TERA 巡り」　参加者数８人
図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール　参加校８校　１７作品

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	世界的に評価の高い芸術作品を広く市民に紹介し、多くの感動を得ることができた。長岡市の平和への取組をＰＲすることができた。
②	A	学校図書館ボランティアへの支援として、養成講座を実施した。アンケート結果からも参加者の満足度の高い充実した事業を展開することができた。また、ボランティアの情報交換の機会を提供することができた。
③	A	地域の特色を生かした事業を今年度は新規事業を実施するなど拡充し、参加者から好評を得ている。

（３）－２　総括評価

重点事項	評価	評価理由
４	A	中央館・地域館ともに、工夫をこらし、多様な事業展開に取組んだ。

（４）今後の課題・方向性

・市民のニーズや時勢を見極め、柔軟な発想をもって多様な事業を展開していく。

・継続事業については、マンネリ化しないよう内容を常に見直し改善に努める。

重点事業２－４－①　　美術センター自主事業

「原爆の図　人間、その濁と清　丸木位里・丸木俊の世界展」の開催

＜目的・概要＞

・図書館という身近な場で、市民が気軽に優れた美術作品を鑑賞できる機会として、年１回のペースで開催している。今年度は、平和への希求をテーマとした作品として世界的に知られる「原爆の図」を中心に丸木位里・俊の世界を紹介する。

原爆の図丸木美術館学芸員の岡村幸宣さんが、開場式・平和学習で訪れた南中学校生徒のために作品解説を行なった

世界 16 カ国で翻訳・出版されている絵本『ひろしまのピカ』の原画に見入る入場者

＜評価＞

・広島原爆の悲劇を後世に伝える作品として世界的に知られる「原爆の図」・絵本原画「ひろしまのピカ」等、傑作の数々を市民から観ていただき、多くの感動の声が寄せられた。

・長岡花火にあわせ開催し、戦後７０を迎える来年度に向けて、長岡市の平和への取り組みをＰＲすることができた。

（今年度実績）

「原爆の図　人間、その濁と清　丸木位里・丸木俊の世界展」　３，１６６人（２５日間）

（昨年度実績）

「生誕９０周年記念　山下清展」　８，５４０人（２３日間）

＜課題＞

学校や家族単位で来てもらえる広報の方法等の工夫が必要である。

重点事業２－４－②　　子ども読書活動推進計画関連講座の開催

＜目的・概要＞

・平成２４年度に策定した「長岡市子ども読書活動推進計画」に関連し、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施するもの。
・今年度は、ニーズの多い学校図書館ボランティア向けの講座を開催する。

図書ボラをはじめよう

（5/17 の様子）　学校図書館ボランティア経験のある高橋嘱託員（司書）が講師を務めた。

（6/7 の様子）どの参加者も学ぶ意識が高く、真剣にメモをとり、積極的に質問する姿が見られた。

＜評価＞

・「学校図書館ボランティア」とは何か。選書・分類・整備方法など、ボランティアが行う具体的な活動について指導することができ、ボランティア初心者には大変役立つ講座となった。
・日頃、相談できる場が少なく、何をして良いかわからないまま手探りで活動を始めている学校図書館ボランティアが多い中、専門家・経験者・他のボランティアの話を聞くことのできる貴重な情報交換の場となった。

（今年度実績）

①図書ボラをはじめよう「楽しい学校図書館とは」　平成２６年５月１７日（土）　参加者数１８名
②　　〃　　「学校図書館の整備」　平成２６年６月　７日（土）　参加者数１８名

（昨年度実績）

①　「はじめての読み聞かせ」　平成２５年５月２６日（日）　参加者数　２２名
②　「楽しいブックトーク」　平成２５年９月２８日（土）　参加者数　１８名

＜課題＞

このような講座のニーズが非常に高いことから、今、図書館の立場でできる学校図書館へのサポートを今後も継続していく必要がある。

子どもの読書環境の充実や読書機会の増大を図るためには、密接に子どもと関わる保育・教育現場の理解・協力が不可欠である。関係課との連携をより深めて取組んでいく必要がある。また。ボランティアを養成すると、とかく「ボランティアにまかせて終わり」になりがちであるが、市・地域全体で子どもの読書環境を改善していくという意識を高めていく必要がある。

重点事業２－４―③

地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

＜目的・概要＞

・特色資料や地域性を生かした事業を実施することで、集客を図るとともに地域に密着した地域図書館を目指す。（南館「摂田屋醸造歴史さんぽ」、寺泊館「寺泊地域探訪　寺 - TERA 巡り」など）

・各地域図書館で地域性を生かした催しなどを開催するとともに、それにあわせて所蔵している特色資料の活用を図る。また、７つの地域図書館のネットワークを生かした取り組みを行う。

（地域館全館「図書館を使った調べる学習コンクール：市内全小学校対象」）

＜取り組みごとの内容・評価・課題＞

〇地域性を生かした事業の実施

摂田屋醸造歴史さんぽ

南地域図書館の特色・醸造コーナーに関連した行事。摂田屋地区を歴史解説付きで散策する。

寺泊地域探訪「寺 - TERA 巡り」

寺泊の海岸地域に所在する歴史ある寺院を訪ね歩き、地域の再発見をしてもらう。

＜評価＞

　そのほかでは、西館は「しなのがわたんけん」、北館は「中越高校写真部写真展」、中之島館は「六角凧絵付け見学会」を行った。また、栃尾館では地域行事の街めぐりイベント「雁木あいぼ」に出店という形で初めて参加し、地域行事を盛り上げた。参加者のアンケートでは、「来年度以降も続けてほしい」とのお言葉をいただいた。来年度以降も地域の特色を知ってもらう行事を積極的に実施していきたい。

＜課題＞

　「摂田屋歴史醸造さんぽ」など、企画が定着してきたイベントは、定員をオーバーし、断るほど好評であるが、参加者がなかなか集まらないイベントもある。「市政だより」はもちろん、各地域の「支所だより」などの PR 方法を活用するとともに、報道機関へのＰＲをより積極的に行うとともに、参加者を増やすための様々な方策の検討・実施が必要である。

○図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール

事前説明会	桂小学校での表彰式
百科事典の使い方や、参考文献の調べ方などを説明。『総合百科事典ポプラディア』（ポプラ社）を使ったクイズも実施。 	奨励賞を受賞した長岡市立桂小学校より表彰式の依頼があり、全校朝会で表彰を行った。

＜評価＞

昨年度の応募作品は７校から 26 作品であったが、今年度は８校から 17 作品の応募となった。昨年度に比べ作品数は減少したが、参加校は７校から８校へと１校増加した。また、審査委員をお願いしてある市内小学校の図書館協議会の校長からは「作品は昨年に比べ非常に素晴らしい作品」であるとの評価をいただいた。

＜課題＞

夏休み期間中に、各館でコンクールに関するガイダンス、作品作成のための指導を行った。このコンクールへ応募するため図書館に何回か通ってくれた児童のうち、残念ながら作品として仕上げられない児童もいた。来年度以降は、こうした児童への指導、フォローを積極的に行っていきたい。

２－５　重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－５　職場内研修をはじめ、様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

２－５　重点事項　を達成するための重点事業

①外部研修

②職場内研修

（１）重点事業概要

① 外部研修

県立図書館主催の研修に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。

② 職場内研修

職員研修は主任以上の職員が講師となり、毎年度計画的に実施している。今年度は外部データベースの使い方講座などを予定。また著作権に関する勉強会を行う。

（２）事業実績

① 外部研修

別紙事業報告のとおり。

② 職場内研修

別紙事業報告のとおり。

（３）－１　事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	予算を調整し県外の研修に参加することができた。
②	A	安全対策研修や火災報知機研修など新しい分野の研修を行った。また、新規に職員による勉強会を実施し、その成果を全体会議で発表し、知識の習得に努めた。

（３）－２　総括評価

重点事項	評価	評価理由
５	Ａ	外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

（４）今後の課題・方向性

新潟県内の研修のみではなく、全国図書館大会や図書館総合展などの全国規模の研修に参加し最新機器や図書館の動向などの情報を得ることができた。館内研修では、安全管理研修として不審者への対応について警察職員のアドバイスを受けたり、火災報知機の作動研修を行い危機管理対策を行った。今後も研修の情報を職員間で共有し業務に活かしたい。

今年度から始めた勉強会については、今後も継続し、職員の意識改革につなげていく必要がある。

地域館については、今後、新人スタッフを外部講習などに積極的に参加させるなどベテランスタッフとして育てることが必要である。

重点事業：２－５－①　外部研修

＜目的・概要＞

・新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、専門性の向上を図る。

＜参加研修＞

①新潟県公共図書館新任職員研修	５月２３日	（参加中央館２名　地域館０名）
②新潟県公共図書館児童部門研究集会	６月　３日	（参加中央館３名　地域館３名）
③著作権セミナー	８月　８日	（参加中央館２名　地域館０名）
④新潟県公共図書館中堅職員研修会	９月２７日	（参加中央館２名　地域館０名）
⑤新潟県公共図書館総合部門研究集会	１０月２８日	（参加中央館３名　地域館１名）
⑥資料管理データベースシステム研修会	７月２９日	（参加中央館１名　文書１名）
⑦新潟県内図書館実務担当者会議	１２月１１日	（参加中央館２名　地域館１名）
⑧図書館総合展	１１月　７日	（参加中央館３名）
⑨全国図書館大会	１１月　１日	（参加中央館１名）
⑩新潟県公共図書館職員専門研修会(予定)	３月　５日	（参加中央館３名）
⑪国立国会図書館デジタル資料活用セミナー	３月２０日	（参加中央館１名）

＜評価＞

（今年度実績）　中央館　23 名　参加　　地域館　５名　参加
（昨年度実績）　中央館　18 名　参加　　地域館　10 名　参加

・中央図書館では、図書館総合展、全国図書館大会の二つの県外研修に新たに参加し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。
・大手通表町東地区再開発の検討のため、武雄市図書館や武蔵野プレイスなど全国の先進事例の調査視察を行った。
・地域図書館では、想定外のスタッフの異動が続き、利用者への対応に影響がでないよう、通常業務を優先したため、外部研修への派遣を減らさざるを得なかった。

＜課題＞

中央図書館では、外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善の取り組みをどう行っていくかが課題である。また、地域図書館では、新規採用したスタッフも通常業務に慣れてきたので、今後はこの新人スタッフを外部講習などに積極的に参加させ、ベテランスタッフとして育てていくことが課題である。

重点事業：２－５－②　職場内研修

＜目的・概要＞

・主任以上の職員が講師となり、職員の専門性向上・情報共有を図る。

＜研修内容＞

〇中央館

①データベース職員向け研修　　４月３０日　講師：第一法規　電子メディアチームリーダー
②レファレンス研修　　７月３１日　講師：県立図書館　根岸　拓也司書ほか
③安全対策研修　　９月３０日　講師：長岡警察署生活安全係長
④製本・修理研修　　９月３０日　講師：新潟県立図書館　管理員
⑤【合同】同和問題研修　　１０月３１日　講師：男女共同参画推進室　渡辺室長　金垣館長
⑥火災報知機研修　　１０月２７日、１１月４日　講師：長岡電業
⑦職員スキルアップ研修（１）１月１９日　講師：ＡＲＧ代表取締役　岡本　真氏
⑧職員スキルアップ研修（２）　２月２４日　講師：広報アドバイザー　木倉資展氏
⑨ＴＯＯＬｉ研修　　２月２６日　講師：ＴＲＣ担当者
※著作権勉強会　　４月３０日、６月３０日、１０月３１日（発表・意見交換）

〇地域館

①普通救命講習　　４月３０日　講師：与板消防署
②ＴＲＣ新潟県合同研修　　９月２９日、３０日　講師：杉山　亮氏（児童書作家）
子どもと本についての講演、ワークショップなど
③【合同】同和問題研修　　１０月３１日　講師：男女共同参画推進室　渡辺室長　金垣館長
④ 初級向けレファレンス研修　　１月３１日　講師・県立図書館職員
⑤ 図書館と著作権に関する研修　３月３１日　講師：ＴＲＣアドバイザー　末次　牧子

＜評価＞

（今年度実績）　　中央館　９回実施　　地域館　５回実施
（昨年度実績）　　中央館　５回実施　　地域館　４回実施

中央図書館では、新規に安全管理研修として不審者への対応について警察職員のアドバイスを受ける研修及び火災報知機の作動研修を実施し、図書館内での危機管理対策を行った。さらに人事課の職員提案型研修に応募し、外部講師を招いて「職員スキルアップ研修」を行うことができた。

また、新規に著作権勉強会を立ち上げ、著作権について知識の習得に努め、成果を全体会議で発表した。

地域館では、職員の能力育成のための全スタッフ参加の内部研修を年３回実施することとしており、今年度は９月末に新潟県合同研修、１０月末に同和問題研修を実施した。３月末に図書館と著作権に関する研修を実施した。

＜課題＞

中央図書館では、外部講師による研修を希望する職員が多いことから、他部局の市職員を講師として有効活用するとともに、今後とも様々な手段で研修の機会を設ける必要がある。また、地域館では、館によって休館日が月曜日と木曜日に分かれているため、全員参加の研修を実施するためには、月末休館日の月末作業後か、同一研修を２回に分けて開催するが、講師のスケジュール調整などが課題である。

参 考 資 料

評価を行わない重点事項

長岡市立図書館運営方針の重点事項

２－６　施設設備の老朽化に伴い、改修計画を策定し、大規模改修を図る。

重点事業：２－６－①～③　昇降機改修工事

＜目的・概要＞

・耐用・推奨期間（２０年）が経過した昇降機３台の改修工事を行うもの

契約工事名	契約金額	主な内容
教図工第２号　中央図書館 昇降機（１・３号機）改修工事	６３，０６１，２００円	全面入替工事
教図工第３号　中央図書館 昇降機（２号機）改修工事	１６，７４０，０００円	一部改修工事

＜中央図書館改修の状況及び計画＞

改修完了箇所	完了年度	改修計画		完了目標
空調設備冷却塔更新工事	H２２年度	***昇降機改修工事***	完了	***H２６年度***
非常放送設備更新工事	H２３年度	書架補強・耐震対策	設計完了	H28 年度
空調設備改修工事	H２４年度	ブラインド取替工事		H２８年度
非常通報設備更新工事	H２４年度	美術センター改修		H２８年度
排煙用オペレーター修繕工事	H２４年度	駐車場整備工事		H２９年度
給水管改修工事	H２５年度			
電気設備取替修繕工事	H２５年度			